

衛生費

Q 乳幼児の医療費が増えているが、乳幼児がだんだん減ってきている中で何が増しているのか。

A 子どもたちのインフルエンザや他の病気も増えてきていて、病院にかかっている子どもが多いことが要因と考える。

Q ゴミ袋の在庫はどれくらいあるのか。清水町のゴミ袋は比較的破れやすいがゴミ袋の品質を変えることはできるのか。

A 現在の在庫は大体4か月分ほどある状況。品質に関しては、改善できるか業者と検討していく。

労働費

Q 十勝清水ハローワーク事業は、本当のハローワークのサイトがある中で、働きたいが、わざわざ清水町のホームページで求人を探すだろうか。

A 閲覧数はゼロではない。十勝清水ハローワークだけを見に来たとは言い切れないが4,487回の閲覧がある。求人の募集がどれだけあるのかというのを町のホームページでわかることは良いことだと考えている。

Q 十勝清水ハローワークの求人情報の中で、社会保険等が一切明記されていない企業がある。最低でもそのような情報は載せるべきだと思うが。

A 求人情報については各事業所に参考シートを出していただいている状況で、その部分が空欄になっている状況である。社会保険など大事な項目なので、確認して注意していく。

農林業費

Q 甜菜の作付け支援事業の助成額が、1 ha 辺り1万円の根拠は何か。少ないのではないか。

A 年間6～7回の防除を実施するが、1回3,000円/haかかるので、半分程度の経費とした。次年度に向けて農協やホクレンとも協議して検討したい。

Q 新規就農者が増えるような政策に力を入れるべきではないか。

A 関係機関や農業委員会とも相談をしながら、対策を打っている町村のやり方を参考にし、今後検討していく。

Q 学校の畑で使ったり、町の中にタンクを設置したりして消化液（液肥）を町民が自由に利用できるようにしてはどうか。

A 美蔓から持ってくるには規模が大きくて色々な問題が出てくる。家庭菜園等で消化液が使えるのは町としてとてもPRとして良いものなので努力したいが、時間がかかると思う。



商 工費

Q ビジョンマップを作成したらどうなるのか。作成する理由と今後どう活用していくのか。

A 今後行政が計画を作るときに、商店街のここにはこんな機能や施設があったらというものを上げていきたい。町民と共有できる具体的な目標として活用していきたい。

Q 企業等スタートアップ事業補助金200万というのは少ないと思う。補助上限を引き上げてほしいのではないか。

A 上限200万円は、この補助金ができたとときの上限額がそのまま引き継がれている。社会情勢や財政的な状況を見ながら、総合的に判断していきたい。

Q 2月発行のプレミアム商品券は、大型店で使えないので、使えるようにしてほしいという声が多いが。

A 10月に発行したプレミアム商品券は商工会が発行していて、2月はハーモニー会が発行しているので今回のような状況が生じている。商工会とも協議して、町民が使いやすい商品券事業に努めたい。

土 木費

Q 住宅耐震診断と改修費補助は、現状実績がないと聞いている。能登半島地震を受けて町民の関心も高まっていると思うが、今後の予定はどうか。

A 住宅を改修するときそういった診断や耐久補強という部分が出てくると思うので、各種団体や建設業界等に情報を共有しながら少しでも利用につなげるよう改善していく。

Q 交差点部の除雪がすく溜まっていて危ない。そういった部分の対策は今後どうしていくのか。

A 車道確保で路肩を広げ、交差点も見やすくしているが、十分でないところもある。交通安全上に支障がある部分については確認をして対応していきたい。

消 防費

Q 消防団が定員割れしていることについて、消防担当として議論しているのか。

A 現在の定員は人口が多い時の定員のままで変わっていない。具体的な検討はしていないが、協議しなければならないということは団長に伝えている。

教 育費

Q 小学生の親善派遣授業について、今回も8名派遣することになっている。今回の8名はどのように選出されるのか。

A 小学5、6年生の募集をもらっている。清水小学校からは7名、御影小学校からは1名の応募をいただいて教育長が両学校長の前で抽選で選出をしている。御影小学校からは少なくとも2人は確約する、清水小学校からは4人は確約するといったような人数の配分など両学校から出ていただけるよう配慮していく。

Q 今回英語検定の助成の実施について、この事業を実施するに至った経緯は何か。また、漢字検定や日本語検定、習い事等含めて保護者から負担の要望はあるのか。

A 他の検定や習い事について要望は特にもっていない。英語検定については小・中学校から、毎年多くの子どもたちが受験していることを聞いており、ちょうど国際交流の取り組みもやっていることから、実施することとした。負担を少しでも抑えながら、子どもたちに語学への興味や関心意欲を深めてもらいたいと考えている。